



## 一 般 質 問

### 公共交通の充実



やまもと かすえ  
山本 一恵  
議員

**質問** デマンドタクシーも6年が経過したが、26年度の利用者数とセダン車、ワゴン車別の利用者数及びさらなる充実、住民のニーズに因應するために今後どのように進めていくのか。

**答弁** (保健福祉部長) 25年度まではセダン車2台であったが、26年度から1台をワゴン車に変更し、利用定員の増員を図ってきた。26年度、本年1月末までの実績は4,657人。利用者内訳は、セダン車2,207人、ワゴン車2,450人。稼働日数は



公共交通として運行しているデマンドタクシー

200日で、1日当たり平均乗車人員はセダン車11人、ワゴン車12・5人。  
現在は、村内全域と阿見町の東京医科大学茨城医療センターを運行区域としているが、稲敷市江戸崎地区内の運行の要望もあり、茨城運輸支局において検討中。

**質問** 公共交通の一つとして、コミュニティバスの運行について、以前の定例会での質問に対し、地区計画にあわせて試験運行をしていくとの答弁だったが、現時点で何か具体案はあるのか。

**答弁** (総務部長) コミュニティバスの導入には路線、区域、運行時刻等において、路線バスとの整合性を図るよう検討が必要。また、村の実情に合っているものはどういったものなのか等、実証実験、試行運転を実施することを目標として、現在推進している役場周辺地区及び大谷地区計画を中心とした市街地形成に向け、公共交通ネットワークも形成できるよう、美浦村地域公共交通会議において協議を進めていく。

**答弁** (村長) デマンドタクシーについては、広域に阿見町、稲敷市との3市町村で運

行できないか陸運局に要望を出した経緯がある。また、稲敷広域の中でも運行の事業化が実証実験として認められればいいのだが。地方創生の中で、地域が抱える課題をどう克服していけるか、関係市町村同士でやっていくべきと思う。

コミュニティバスについては、地区計画の県知事許可がこの4月におけると思う。その結果で商業地域を一つの核として、住民の移動手段の一つとして試行運転ができるよう協議し進めていきたい。

